（別紙の2）

自己評価及び外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	コロナの影響もあり、施設生活が中心となってきている。ご利用者様と関わりながら共に行うようにしている。	「しまうちの家」のパンフレットを見ながら管理者より理念についての説明を伺いました。開設から3年経過し「しまうちの家」が目指す、ほっとハウスの構築に向けて職員と話し合いながら、更に具体的な実践項目を打ち立てて行きたいと管理者から伺いました。	「しまうちの家」が目指す独自の理念を、職員はじめ利用者・家族・外部の第三者等に理解して頂くために、現在の家としての生活環境や空気感を大切にしながら、わかりやすい掲示の工夫を期待いたします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響もあり、地域とのつながりについては不足を感じている。	日頃から、地域、ご近所と気軽に交流が出来るよう管理者が率先して草刈り作業や日々のあいさつ等の関係作りを行っています。ご近所から頂いた柿で利用者と干し柿作りや、畑にミニトマトを植えて交流の機会を設けています。管理者ヒアリングで確認しました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の理解や支援を地域に伝える機会があれば、行っていきたいと考えている。「しまうちの家」とはどんな施設なのかを知っていただけるようにしていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	8月にコロナ感染症があり、事業所で開催できた回数が少なかったが、参加をしてくださった方に助言をいただくなどし、地域の状況を知ることができた。	コロナ禍の関係で8月と10月は書面での報告となりましたが、12月15日は会議開催を行いました。福祉避難所としての取り組み状況を主に話し合われています。玄関を入ると正面にファイルが設置されており、会議内容が誰でも閲覧できることを確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	積極的とは言えないが、地域包括センターには必要に応じて連絡をとるようにしている。地域包括センターの方からも助言などをいただいている。	現在、主に災害時の福祉避難所についての取り組みで連携しています。市町村から事業所への訪問があり、実際の現場を見ながら話し合いを行ったことを管理者から伺いました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内研修などで身体拘束について研修などを行っている。 日頃の何気ない行動も、身体拘束に当たることもあるので注意をしている。	身体拘束をしないケアの実践のために、生活環境の変化により精神的に不安定になる方の対応や、異なる基礎疾患による行動特性や対応の違いを理解するよう職員研修を行っています。また、日常の生活支援の中で、職員への指導やアドバイスを行いながら、利用者理解を深めていることを管理者ヒアリングで伺いました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	事業所内研修などで、虐待防止について研修などを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内研修でも取り上げられたので、今後は事業所内研修で知っていただくように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にもご説明を行うが、事前面接時にも事業所で出来ることを事前に説明をしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	請求書の郵送時に、簡単なお手紙を一緒に入れている。ご家族様には、来所時や電話にて必要に応じたご報告はしている。	コロナ禍の状況をみながら、家族の1番の要望である面会について場所・人数・時間等限定的ではありますが工夫して取り組まれています。これからも利用者や家族、地域等からの提言や苦情等の意見を気軽に発信して頂けるよう、苦情解決の流れや受付場所をわかりやすく周知・工夫されることを期待いたします。	利用者や家族、外部の方が提案や苦情を発信しやすい（例えば苦情受付箱のような）環境整備の工夫をお願いいたします。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議や全体会議で意見を聞いたり、調整を行っている。必要に応じて個別でも相談に乗るようにしている。	リーダー会議にて職員から事前に出された意見や提案を話し合い、全体会議で報告を行い反映させています。管理者はリーダーや職員からの自発的提案や意見・行動を引き出すような関わりを意図的に行い、リーダーの育成に取り組んでいます。管理者ヒアリングでお聞きしました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課表を参考にして個人面談を年2回又は3回行い、代表者に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得に関して、職員への支援をしている。個人で外部研修などに参加されている場合は、参加できるように協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍で同業者との交流は少ないが、施設見学など希望があった際には積極的に受け入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様と関わりを持つだけでなく、日常会話を気兼ねなくできるように、話しかけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の来所時に相談に乗ることもあるが、県外のご家族様についてはメールや電話などでやり取りを行うこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様などに昔はどのような生活をされていたか聞き取り、ご利用者様ができそうな事を提案をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設経験者の職員もおり一方になりやすいので、ご利用者様と一緒に行うように指導をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍であるが、必要に応じてご家族様の短時間面会を行うこともある。ご利用者様が生活をしていく中で、必要に応じてご家族様にも手伝っていただくこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの影響もあり、現在は行えていないことが多いと思う。	「当初コロナ禍で外出や面会、訪問行事等中止となる状態が続きましたが、今後はコロナ感染状況に注視しながら、地域と馴染みの関係作りを積極的に図るように計画を立てて実行していく予定である。先日も近所のソフトクームを食べに出かけました。」と管理者ヒアリングで伺いました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行事などで全体交流を図ったり、行事準備なども手伝っていただくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院によりサービス終了になったご利用者様ご家族が、来訪や電話で当事業所以外の施設相談などの対応をした。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活やご利用者様との会話から、希望や意向などを把握している。困難ご利用者様については、身体状態や些細な行動から把握するように努力をしている。	職員の異動等により、それまでの信頼関係が途切れることが無いよう、特に担当利用者はじめ利用者の意向や思いを細目に記録に残し、職員周知に繋げています。言葉にたよらない非言語的コミュニケーションについての研修にも力を入れていることを管理者ヒアリングでお聞きしました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みのある物など自宅から持ってきていただくようにし、その人らしいお部屋になるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	気づいたことがあれば、毎日の申し送りや記録に残すなどして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランだけでなく、今年度は全職員が個別介護計画の実施が出来るように取り組んでいきたいと考えている。	毎週、介護計画の報告や変更点のカンファレンスが行われています。実際の介護計画を見せて頂きましたが、訪問看護や機能訓練指導員の視点、介護職の気づきが具体的に細かな内容で記入されており、利用者の今の生活に合った内容になっています。	ケアプランの短期目標の視点を介護計画に反映し、更に計画内容の充実と、利用者個々の生活意欲の引き出しに期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	状態変化や気づいたことがあれば、記録に残すようにしている。ADLの変化があった際には出来る限り細かく記録を残し、その後の支援方法に反映をするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍ということもあり、出来る範囲での対応はしているが、柔軟な支援が行えていないと感じる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握に努めているが、協働までは行えていない。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院の往診だけでなく、必要に応じて電話相談をしている。	現在、それまでの歯科や他専門医を希望されている方はいらっしゃいますが、主に協力医を希望されています。訪問看護との連携を強化しながら早めの報告・連絡・相談に心がけ、家族の医療への不安軽減に繋げています。管理者ヒアリングで伺いました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回の訪問看護の時だけでなく、電話やメールなどで相談や報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の判断にもよるが、グループホームでの生活が維持出来るようなら、早期退院でも受け入れるように事業所内での調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の意向に沿いながら、できる限りの支援をしていきたいと考えている。しかしながら医療行為が常時必要になった際には、グループホームでの支援の継続が困難になることもあるので事前に説明をしている。	しまうちの家ではこれまで終末期のケア経験はありませんが、本人や家族・医師との話し合いにより、意向の確認を丁寧に行っています。重度化された場合でも協力医や訪問看護と連携し、家族と相談しながら可能な限り、しまうちの家で生活して頂いています。管理者ヒアリングで伺いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内研修の実施と判断に困った際には、上司に報告をし対応の相談などしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議などで災害時の地域との協力体制を確認し、現状では施設敷地内待機と考えている。福祉避難所として松本市と協定を検討している。	松本市島内地区地域づくりセンター福祉事業所として協力依頼があり、島内地区防災モデル事業に参画しています。福祉避難所として松本市と協定を結びました。現在BCPを作成しています。管理者から伺い書面で確認しました。	

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様が不快になるような言葉かけには注意を払っている。状況によっては全体会議などで注意をするように伝えている。	利用者の生活のしづらさや意向を素早く把握出来るように、現在介護計画書を活用しています。職員の些細な気づきや変化の発見が、生活支援の実践の中で、個人の尊重とプライバシーの確保に繋がっていることを管理者ヒアリングで伺いました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の意向にならないようにしているが、場合によっては管理者が、ご利用者様の意思決定なのかの確認を職員に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合にならないようにしているが、出来る職員と出来ない職員がいるので、統一した支援が出来ないこともある。今後も努力をしていきたいと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出する際には身だしなみに気をつかうが、日常生活では出来ていないこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や後片付けなどが出来るご利用者様には、職員と一緒に行うようにしている。	食事面は、法人統一でセントラルキッチン方式により、栄養面や献立に配慮した食事が外部から提供されています。「しまうちの家」独自として、毎週日曜日の昼食はみんなで献立を決め、食材の買い出しや調理、盛り付けを行っています。管理者ヒアリングと献立表で確認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	現在は管理栄養士が考えた、クックチルという方式で温め直して食事の提供をしている。 ご利用者様に応じて食事形態の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身でできる方は声掛けを行い、介助が必要な方は支援をしている。必要な口腔ケア用品は職員が管理し購入している。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ADLにあわせて排泄用品を使用している。排便については、オムツ使用しているご利用者様でも、必要に応じてトイレに座っていただく支援をしている。	個別の介護計画に細かく記録しながら、トイレ誘導を基本に、その方に合ったパットの種類や排泄用品を使用し、自立支援に繋げています。ユニット会議にて状況報告や介護方法の周知を行い、その方の状態に合わせた支援に取り組んでいます。管理者ヒアリングと計画書で確認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫の他に、腹部マッサージやトイレに座っていただくなどをして排便を促している。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本的には曜日や時間帯は決まっているが、入浴を好まないご利用者様については、その人のタイミングで入浴をしていただくようにしている。	浴室は隣のユニットとの中間に位置し、職員動線に配慮され、どちらからも往来ができます。職員は入浴時間を利用者と会話を楽しむ機会として意識し、当日も浴室から職員と利用者の笑い声が聞こえていました。家庭に近いお風呂や特殊浴槽があり、利用者の状態に応じた対応が出来るようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングに座りながら寝てしまうご利用者様もいるので、その際にはベッドで休んでいただくように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師やかかりつけの医師と相談をしながら、服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活で役割が持てるような支援はしているが、嗜好品や気分転換などは積極的に行えていないので、今後の課題と考えている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍ということもあるが、お花見、紅葉ドライブなどの行事は実施している。 必要に応じた他科受診などは職員又はご家族様で行っている。	コロナ禍の影響が長引き、また季節が冬になり、なかなか外出が困難な時期ですが、天候を見ながら家族にも協力をお願いして、個人や小グループでの外出を多く計画していきたいと管理者ヒアリングで伺いました。	

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持金は事業所管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人携帯を持っているご利用者様もいる。希望があれが事業所の電話をお貸しすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先などに季節に応じたものを設置し、季節感を味わっていただくように工夫をしている。家庭菜園も季節に応じて野菜作りなどをしている。	居室から共用空間へのつながりが、格子戸の前玄関風に工夫されており、落ち着いた生活空間を作っています。利用者の方が個々に集まり、音楽に合わせて体操を行っている方や外の景色を1人でゆっくり楽しんでいる方など、思い思いの時間を過ごされています。すぐ横のキッチンでは職員がそっとお茶の準備をしながら見守っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合うご利用者様同士が話しやすい席の配置や、希望に沿った席の配置を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使い慣れた寝具などを持って来ていただくなどしている。ご利用者様のADLに合わせて福祉用具をお借りすることもあるが、その際にはご家族様と相談をして使用していくようにしている。	居室ごとに異なる和の色が壁にポイントとして1か所取り入れられ「自分の部屋感」が感じられます。入居される時に、その方が自宅で使われていた家具を持参して自分の部屋を創って頂きたいので、「しまうちの家」ではあえて何も置いていないことを管理者から伺いました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	少しでも出来ることがあれば、多少の時間が掛かることや少しだけしかできなくとも、まずは行えることはやっていただくようにしている。その後出来ないところを手伝うようにしている。		